



モノがなくなれば考え方も変わる

日下 今まで自治体は、高速道路や新幹線を作り、公会堂や市民会館を作り、だいたい全部揃えてきました。しかし、モノがないのは恥ずかしいと思つて作りを作ってきた時代は、もう終わると思いません。財政改革会議がまとまって、来年の予算案には、公共事業費も福祉予算も防衛費もODAも、何でも削るぞと書いてあるんですよ。あれは自・社・さの三党合意ができてますから、国会を通過して、来年には実行されます。だから来年は全然違う日本になって、再来年からは新しい日本になると思つています。その時の日本はモノがなくなっているということになるんじゃないかと、私は思っています。

財政改革会議で宮沢元首相は、国民に対して老後の年金はもう払えないとばかり白状して謝つたらどうかと言いました。橋本さんも聖域は設けたいと言っています。例えば福祉で言うと、来年は六十五歳以上の高齢者が百万人増えるんですね。それに伴う福祉予算は削ることに決まっただけです。もつとすこいは外為法改正ですね。これをやると、私は銀行員なんて半分くらい要らなくなると思つています。公務員も僕は四分の一になっていいと思つてます。モノがなくなればコトの方も変わつてきて、人の考えも変えなきゃいかんというよつな大事件が迫つていると思つています。

マズローの説は段階説で、まず腹一杯食べるようになって初めて次の段階へ移るとのことです。だから十分人に威張つて名譽心が完全に満足して、次は

自己実現へ進むんです。でも、僕は違つて思つています。日本人はもう少し賢くて、例えば天台宗の教えは、六道という状態があつて、その上に四つの段階があるわけです。一番上が仏様で、その次が菩薩で、一番下が地獄なんです。全部で十段階ある。ところが天台宗の教えの偉いところは、この各段階の中に全ての要素が少ずつあると言つてるんです。地獄の中にも十段階が少ずつあるから、地獄で仏を見ることもできる。だからその人は上へ上へいけるんだと。地獄は地獄だけで何の兆しもなかつたら、上へ上へいけるはずがないんじゃないかということまで考へているんです。何はなくとも仏にはなれる、つまり自己実現までには行ける。そのくらいの気持ちでものこを考へてほしいと思つています。

自信を持つこと、行動すること

水野 最近、モノが捨てられた時にどういふ問題が起きるかを考へなければいけなくなつたと思つています。例えば、冷蔵庫やクーラーを廃棄するとフロンガスが空気に出てきて、地球温暖化に悪い影響を与える。ということは、廃棄の形でも考へてモノを設計しなければいけない。

その次には、リサイクルや再生の方法まで考へなければいけない時代になつてくるんですね。作つて買つただけではなくて、廃棄、再生というプロセスが非常に重要な意味を持ち始めて、それがモノの在り方、モノの考へ方に対して、非常に大きな問題提起をしていくのではないかと思つています。

消費というのは、消えて費やすと書き

ます。バツとブームになつて、それを全部消費して、また次に行く。その後はゴミの山が残るといふ消費文化が、今、まさに日本を支配しています。しかし過去の歴史を見て、大きな文明というのは全部滅びる運命にありました。森林をエネルギーなどのために使い果たして、結局自ら首を絞めて、文明は滅びていくんです。今、地球がまさにその状態にあると思つています。この中で消費の前提にあるモノ作りという時に、廃棄や再生まで考へるためには、モノを今までのようなスピードで作つたり、消費したり、捨てたりということ自体、考え直さないといけないんじゃないか。マズローの説では、それぞれの段階にそれぞれの成熟があるということですが、これは一番上までかけ登ればいいという問題ではないんですね。やっぱり行きつ戻りつしながら消費というものは成熟させていかないといけない。作り替えていくとか、あるいは持つてる道具を自分の知恵でもつと使ひこなしていかね。もつと自分のモノを大事にしていくとか、消費の在り方を変えないといけない時代になつてきているんじゃないかと思つています。

西川 モノ作りを考へた時に、例えば日本の車はモデルチェンジすると、どこの車でも、なんという車種が全く分らないくらい変わるんですね。欧米では、ベンツは絶対ベンツだし、ボルシエもボルシエだし、それはモデルチェンジしても判りますよ。街の風景にしても、全て一度に変えてしまふというところを、作り手の方も考へていかなきゃいけないんじゃないかと思つています。

てこういうふうには解釈するわけです。みんな、食べ物も持つていたんです。でもこつこつ隠して、人に分けるのがいやだつたんです。でもイエスが任せておけと言つて分け始めたら、皆安心して自分だけのために持つていたものを出したんですよ。つまり、他の人と分けて使へば愛なんですよ。愛というのは、モノを皆で使うということだと思つています。日本人は、モノとの付き合い方を自分の関係だけで考へて、自分の心がそこに通つていれればいいという論理しか持つてないから、愛や公共性が無いんじゃないかと思つています。

人とモノの関係を考へていく時に、大事なものはやっぱり人ですよ。この世に一つしかなくてかけがえのないものというの人は、特に自分なんです。自分が生きていくという、このかけがえのない事実は絶対買えないですね。そのことをまづ大事に思ひ、その上で他人も同じようにかけがえがないということを理解すれば、他人との関係が大事になつてくる。

日下 自信がないから人の真似をして流行にのつて、前と全然違うものを作れば進歩だと思つてるんだと思つています。変化を進歩だと間違えている。だから横並びになつてしまふんです。進歩かどうかというの、自分が決めることなんです。で、何で自信がないかということ、行動してないからだと思つています。マニュアルの勉強ばかりしてるんです。自分で考へて自分で行動すれば自信が湧いてきて、自然にユニークなことができるんじゃないかと思つています。

西川 私もその通りだと思つています。アメリカでもパブルのあとに、インフレーションというのをすこく言いました。日本語に訳すと実践とか実行という意味ですね。私はそれを評論家じゃなくて行論家というふうになつておりました。モノの作り手だけではなくて、消費者も自信を持って行動することが大事かなという気がします。プロシューマーという言葉もありますね。コンシューマー、消費者でありながら、ライフスタイルも自分でプロデュースして。これからは、そういうことが求められるというか、そのあたりが志なのかなという感じも受けます。

二十一世紀には開発しない開発を

水野 日本人はモノ崇拝なんです。ですから市町村に公民館や音楽堂などの立派な箱ものができると安心するんですよ。ところが実際はカラオケ大会はつかりなんです。ハード指向で、どんな文化を実現していくのかという中身がない。私はこういうやり方を変えて、中身にお金を

その他人との関係を阻害するような形でモノとかかわつてはならない。こういう順序は当たり前なんです。

西川 今日本は、自分が何者なのか、どこに向かつてるのか判らなくなつて、モノを消費することによって、寂しさを紛らわしているという感じを受けてるんですね。しかし、モノを選ぶ、買う、作るというのは、自分探しであり、自分磨きだと思つています。他人と違つたということが魅力になつてくるのに、どこの町も同じ風景で、みんながブルズソックスを履いているというのではおもしろくない。それには消費者、メーカー、地域、国が、自信を持って行動することが大事なんです。同時に、橋爪さんが愛ということをおっしゃいましたが、それが他人を尊重することにもつながつてくるんじゃないかと思つています。もう一度一人一人が、モノを通して自分を見つめ直して、自分を磨くということが大切になつてくるのかなという感じがいたしました。

プロフィール

日下公人(くさか きみひと) 出社ソフト化経済センター理事長、多摩大学教授。著書「日本経済新聞の読み方」「全社ネット」(お役所情報の読み方)「ビジネスマンのための幸福への15章」(経済人生哲学の接点から)「目をませ」(日米関係)「はじめのつけ」(責任者)など



西川りゅうじん(にしかりゅうじん) マーケティングコンサルタント。仕事「東京ベイサイドスクエア」(大阪心斎橋長堀)「下街」(プロデュース)「NTTデパート」(イチャモル)「アドバサ」(読売広告大賞審査員)「UPPORT」(交際のすすめ)など



橋爪大三郎(はしづめ だいざぶろう) 東京工業大学教授。著書「橋爪大三郎の社会学講義」(同2)「はじめの構造主義」(大問題)「冒険としての社会科学」(性愛論)「民主主義は最高の政治制度である」(小室直樹の学問と思想)「自分を活かす思想」(社会を生かす思想)「研究開眼」など



水野誠一(みずの せいいち) 参議院議員、東京クリエティブ理事長、日本ネットスケープコミュニケーションズ(株)顧問。新党をきかけ政策調査会長。流通産業研究所顧問。

